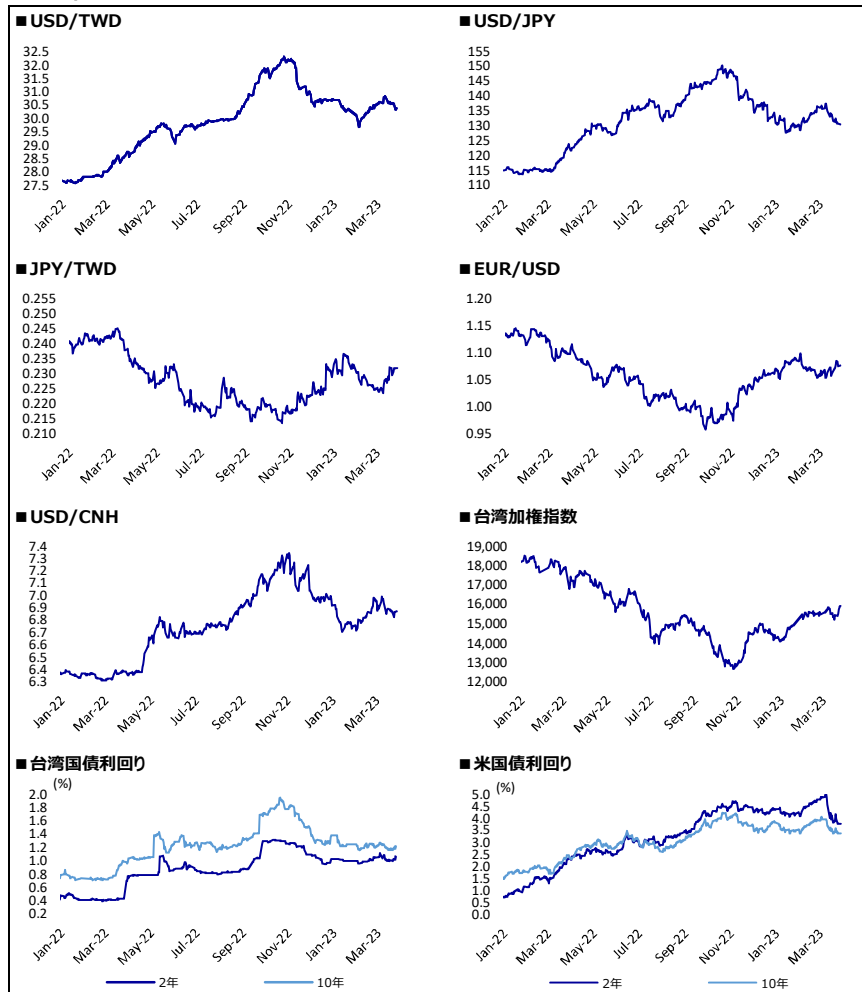


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初3/20は30.540でオープン後、軟調な台湾株につられて上昇。外国人投資家の台湾ドル売りから30.6台に乗せたものの、30.6台では輸出企業のドル売りも入り、上値は押さえられた。3/21は翌日にFOMCを控えていることもあり、様子見ムードが強く、一時30.605をつけたものの上値が重い状況は続いた。3/22は台湾株が上昇したこと台湾ドルが買われ30.5台を割り込んだが、輸入企業等のドル買い需要から底値は堅かった。3/23はFOMCの結果を受けてドル安が進む中、台湾株の上昇もあり、ドル台湾ドルは一時約1か月ぶりの台湾ドル高水準となる30.314をつけたが、一巡すると30.37付近まで戻した。3/24は台湾株が堅調に推移する中、底値は堅く30.35付近で推移。3/25は土曜営業日で商いが薄く、狭いレンジでの推移が続いた。最終的には先週比0.5%ドル安台湾ドル高の30.388で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は468.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初3/20は132.05でオープン後、週末にスイス銀の買収や中銀6行の流動性供給の表明等、金融システムへの不安を払拭するための手段が報じられたものの、リスク回避の円買いから130円台半ばまで下落。一巡後はリスクオフムードが和らぐと米金利の上昇もあり、131円台に戻した。3/21は東京休場の中、動意に乏しい展開が続いたが、イエレン米財務長官が小規模金融機関の預金流出時には預金保護などの可能性について言及したこと金融システムへの不安が後退し、リスクオンの流れから円は売られ132円台半ばまで上昇。3/22はFOMCの前に米金利が上昇し、ドル円も一時133円ちょうどまで上昇。しかし、FOMCでは0.25%の利上げを決定も、「利上げ休止を検討した」等のパウエルFRB議長の発言を受け米金利は低下、ドル円も131円ちょうどへ急落。3/23はFOMC後のドル売りが継続、130円台半ばまで下落。米金利の下落が一服すると一時131円台に回復したものの、上値は重く、130円台で推移。3/24は日米金利差やリスク回避の動きが強まり円が買われると一時、約1か月半ぶりの円高水準の129.65まで下落。その後はFRB高官の発言や米3月製造業・サービス業PMIが予想を上回ったことからドルが買い戻され、最終的に先週比0.8%ドル安円高の130.74で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：30.000-30.550
今週は下落すると見込む。金融不安が払しょくされていないものの、今週は四半期末の月末週の実需に加えて、翌週に連休を控えていることから、台湾ドル買い需要が高まるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：129.00-133.00
今週は上値が重い展開を見込む。先週のFOMCを受けて米金利が低下する中、日米金利差が意識されやすい環境は続くであろう。また、依然として金融システムへの不安を抑え込むことは出来ておらず、リスク回避の円買いの動きにも引き続き注意したい。

今週の予定

3/27 (MON)	
3/28 (TUE)	米3月消費者信頼感指数
3/29 (WED)	米2月中古住宅販売仮契約指数
3/30 (THU)	米Q4GDP確報値
3/31 (FRI)	米2月個人所得・消費

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。